

【用語】草津―吾妻郡草津町 貴賤―身分の高い人と低い人、すべての人 跡部大炊助―跡部勝資、武田家臣で上野支配のための奉行の一人 三原衆―吾妻西部（三原荘）の地侍や土豪の総称

【解説】上杉謙信の関東出陣に対して、甲斐・信濃南半を統一した武田信玄は、北条氏康ほつじょうしやすへの支援を口実に西上野へ進出した。そして、永禄七年（一五六四）に倉賀野城、同九年九月に箕輪城、同十年五月に総社城を攻略し、利根川以西地域の武田氏支配を確立したのである。信玄の侵攻で武田領となった西上野には数多くの温泉があった。なかでも草津と伊香保は、室町時代以前から全国的に知られた温泉で、戦国時代には薬湯として戦傷者の治療・療養に利用された。とくに草津の湯は殺菌力が強く、戦傷の化膿を防ぐ効果があった。この草津谷の在地領主の湯本氏は、武田方の真田幸隆に属して永禄六年十月の岩下城攻略に参加し、その論功行賞として翌年二月、信玄から草津の湯権と所領を安堵された。

この文書は、永禄十年信玄が吾妻の三原衆にあてた朱印状で、内容は六月一日から九月一日まで草津入湯を禁止するというものである。

これは武田氏の西上野攻略に際して戦傷者が多く、その湯治のために発せられたといわれている。なお、この文書は草津町指定の重要文化財である。